

インフルエンザ:小児用マスク1万枚寄贈 /福岡

「インフルエンザの感染防止に役立てて」と、大牟田医師会顧問で耳鼻咽喉(いんこう)科医院の辻政義院長と衛生商品メーカー「CROSSEED(クロシード)」（飯塚市）の辻政和社長が18日、大牟田市を訪れ、小児用の抗体マスク1万枚を市に寄贈した。

クロシードは京都府立大と共同で、予防効果の高い抗体をしみ込ませたマスクを開発。辻社長は大牟田市出身で、おじの辻院長にマスク製造のアドバイスを受けたこともあり「郷土の子供たちのために」と寄贈した。

同市内では現在小中学校6校が学級閉鎖中で、今季はこれまで延べ45校で学級閉鎖となっており、古賀道雄市長は「全国で猛威を振るっているインフルエンザの感染拡大を防ぐためにも心から感謝している」と話していた。

〔筑後版〕